



## 「あまおう」8月の管理

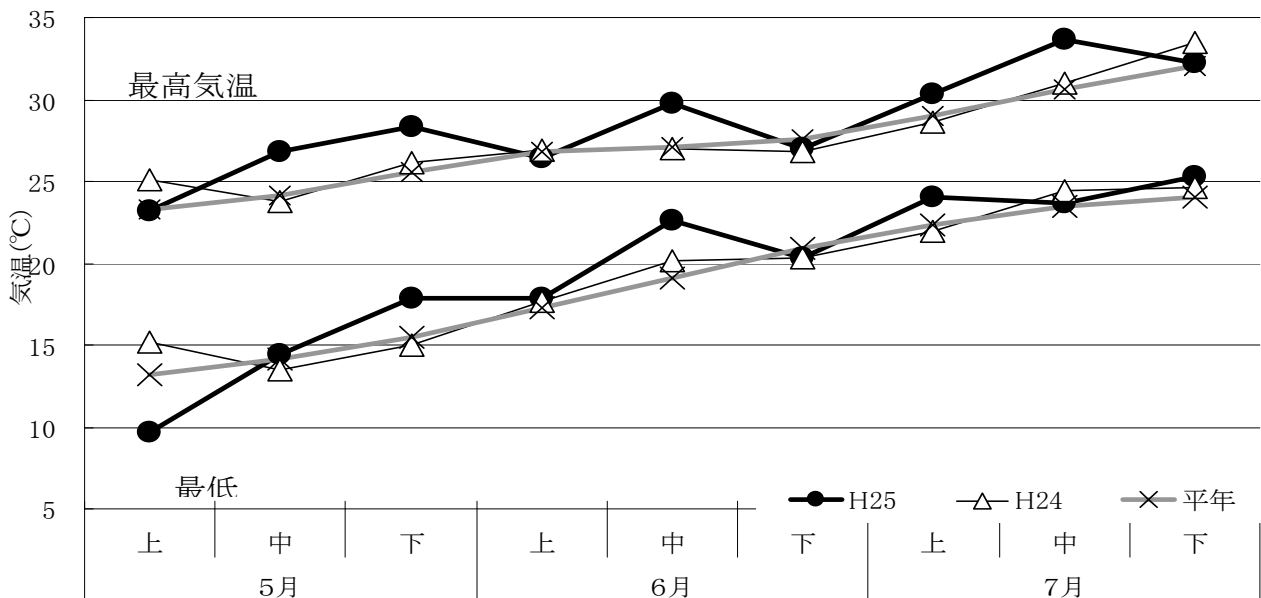
南筑後普及指導センター  
福岡大城農業協同組合

- ◇ 気温が高く推移しています。肥料の切れすぎに注意しましょう。
- ◇ 低温処理前には、「うどんこ病」や「ハダニ」等の防除を徹底しましょう。

今年は、採苗時期の6月が高温少日照傾向で推移しており、一部、サシ苗で寒冷紗の除去が遅れたほ場等でやや徒長気味の苗になっています。また、平年と比べて雨が非常に少なく、苗の生育は小ぶりで展開の遅れや、かん水ムラ等による根傷みも見られています。苗の回復が遅れて充実していない場合は、作型を遅くするなど苗の充実具合に応じた作型の選択が必要です。

病害虫では、「炭そ病」の汚斑症状が散見され始めています。発病株の早期発見・早期排除に努めて下さい。

また、「ハダニ」「アブラムシ」も発生しておりますので、注意して下さい。



## 作型と苗の管理

### 作型の選択

- クラウン径が8mm未満の苗は、無理して早い作型にせず、苗の充実を優先させる。
- うどんこ病の発生が見られる苗は、遅い作型に使用する。
- 作型は、厳寒期の出荷増と春期の収穫ピーク軽減のため、低温処理作型と普通ポットを組合せ、2~4作型を導入する。
- 労力分散のため、作型は栽培面積が大きいほど多く組み合わせる。

表1 「あまおう」の作型別、処理期間と定植日及び収穫開始の目安

作型 (予冷库利用)	入庫	出庫	定植日	陽光処理	収穫開始
株冷Ⅲ型	8月18日	9月10日	9月10～14日	3回	11月上旬
株冷Ⅳ型	8月23日	9月15日	9月15～18日	2回	11月中旬
株冷Ⅴ型	9月1日	9月19日	9月19日～	1回	11月下旬
夜冷Ⅲ型	8月18日	9月10日	9月10～14日	—	11月上～中旬
夜冷Ⅳ型	8月23日	9月15日	9月15～18日		11月中旬
夜冷Ⅴ型	9月1日	9月19日	9月19日～		11月下旬
普通ポット			9月20～25日	—	12月上～中旬
普通晩期(厳寒期安定出荷を目的)			9月26～28日		12月下旬

### 肥培管理

クラウン径が8mm以上に充実した苗を育苗目標とする。

- 根傷みしている場合は追肥(置肥)を控え、根が回復するまで葉面散布を行う。
- 根傷みしている場合は、発根促進剤を施用する。
- 各作型に応じて最終追肥時期(表2)を決め、計画的な施肥を行う。
- 育苗後半の肥料切れは、1番果房の着果数減少や早進株の発生の原因となるので、作型に合わせて極端に切れ過ぎないように注意する。

表2 最終追肥時期の目安

作型	3.5寸鉢	3寸鉢
夜冷(8月中下旬処理開始)	処理 10日前	処理 5日前
株冷Ⅲ型(8月18日入庫)	8月1日	8月7日
株冷Ⅳ型(8月23日入庫)	8月5日	8月10日
株冷Ⅴ型(9月1日入庫)	8月10日	8月15日
普通ポット	8月25日	8月30日

### かん水

- 「あまおう」は根傷みしやすいため、鉢土の乾き具合を常に観察して、過湿にならないようにかん水量を調整する。
- かん水は午前中を中心に行い、夕方には鉢土の表面が乾く程度にする。
- 寒冷紗を被覆すると鉢土が乾きにくくなるため、乾き具合を見てかん水を控える。

### 葉かぎ

- 1回当たりの摘葉数は2枚以内とする。
- 苗の葉数が、3～3.5枚になるようにする。
- 生育が悪い時や降雨時・直前は摘葉しない。
- 葉かぎ後は、必ず「炭そ病」の防除を行う。
- 最終摘葉の後は、「ハダニ」「ヨトウムシ類」及び「炭そ病」の防除を必ず行う。(裏面につづく)

表3 作型別最終摘葉時期

株冷	入庫 10日前
夜冷	入庫前
普通ポット	8月30日頃

## 【株冷入庫 10 日目の体内窒素濃度による管理】

体内窒素濃度	対 策
25ppm 以下	葉面散布 2回:OKF-1 1,000 倍、メリット青 500 倍など
25~100ppm	葉面散布 1回:OKF-1 1,000 倍、メリット青 500 倍など
100~250ppm	かん水のみ
250~500ppm	PK剤の葉面散布 1~2回 2~3日前に 100ppm 以下になっているか再調査する
500ppm 以上	遅い作型に変更する

## 花芽分化促進

### 【株冷処理】

- 株冷処理の間に苗が消耗するため、充実した苗を使用する。
- 株冷入庫時に葉柄中の窒素濃度が 25~50ppm になるよう、肥培管理を行う。

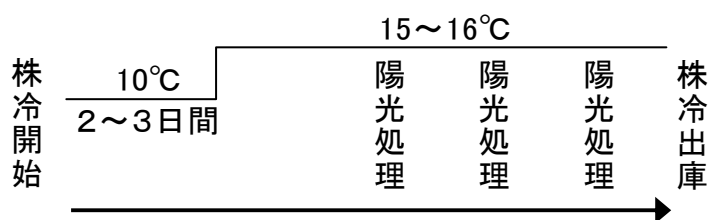


図1 株冷入庫期間の温度管理

### 〈 陽光処理 〉

※ 入庫後半には、花芽分化の安定と苗の消耗防止に、数回苗を太陽の光に当てる。

### 【夜冷処理】

- 処理期間中に肥料切れしないよう、処理開始時には適当な濃度（試験紙判定で 150ppm 程度）の体内窒素を確保する。
- 入庫時の庫内温度は13°C±2°Cとする。
- 入出庫時間の目安は、午後6時に入庫し、午前10時に出庫する。
- 気温が高い場合、入庫が早いと庫内の温度が下がりにくいため、入庫時間を遅くする。

### 【普通ポット】

- 8月下旬より寒冷紗被覆を行うと、花芽分化の促進と揃いが期待できる。

## 定植床の準備

定植床の準備は、8月中旬までに終了しておく。

### 【土壌消毒】

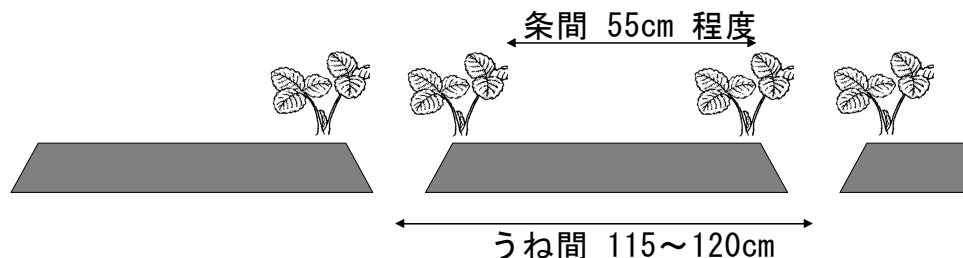
- 前年度に、「炭そ病」、「ネグサレセンチュウ」などの病害虫が発生していた場合は、薬剤による土壌消毒を行う。
- 太陽熱消毒や、微粒剤（バスアミド等）及びD-D等の土壌消毒後の耕起では、土壌消毒前より深く耕さない。（未消毒の土壌が、消毒済みの土壌に混入することを避けるため）
- クロピクフローやクロピク錠剤等の土壌消毒の際は、定植する畦づくりをした後にガス剤等を注入し、定植直前まで古ビニル等で被覆しておく。

## 基肥施用

- 2番果房の花芽分化安定対策のため、定植の早い作型ほど基肥量は少なくする。
- 作型別の基肥施用量は、部会の施肥基準に従う。

## うね作り

- うね作りは、下図のように条間 55cm、うね幅 115～120cm を目安に行う。
- うね作り後は、定植までビニルのベタがけを行う。



## 病虫害防除等

### 炭そ病

- 育苗期間中は定期的な防除を行う(防除例参照)。特に、葉かぎ前後の防除を徹底する。
- 発生株、葉に病斑を確認した株はすぐに除去する。その周辺株も除去する。
- 株冷の陽光処理や夜冷の日光処理中に夕立などの降雨があった場合は、葉の水滴がなくなるまで入庫しない。株冷の場合、翌日の早朝に入庫する。

### ハダニ類

- 発生が多い場合は、葉の展開が遅れ、苗の生育が悪くなる。
- 低温処理開始までに必ず防除を行い、ハダニの発生の無い状態で入庫する。
- 葉かぎ後に、薬液が葉裏に十分付着するように散布を行う。

※本田でチリカブリダニ・ミヤコカブリダニを使用予定の場合は、天敵に影響の長い農薬を使用しないよう注意する。

### ハスモンヨトウ

- 芯葉を食害するため、芯葉に薬液がかかるように散布する。
- 入庫中にも食害を受けるため、入庫前に必ず防除を行う。

農薬名	倍率	回数	使用時期
プレオフロアブル	1,000 倍	4回以内	収穫前日まで
プレバソフフロアブル5	2,000 倍	2回以内	収穫前日まで
	2,000～4,000 倍		
フェニックス顆粒水和剤	(オオタバコガは 2,000 倍)	2回以内	収穫前日まで

**農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう！**